

2019年の金融市場は波乱の幕開け、米英政治問題一巡まで我慢の展開か

■ 米政治混乱に米中景気指標悪化が追い打ち

3日の米株安・円急伸を受け、4日の国内株も軟調です。昨年末以降、米政府機関の一部閉鎖が続くなか、米アップル社の業績見直し下方修正、米ISM指数や中国PMIの大幅低下など、米中貿易摩擦の悪影響が目に見えて表れ始めた点がリスク回避に拍車をかけた印象です（図1）。

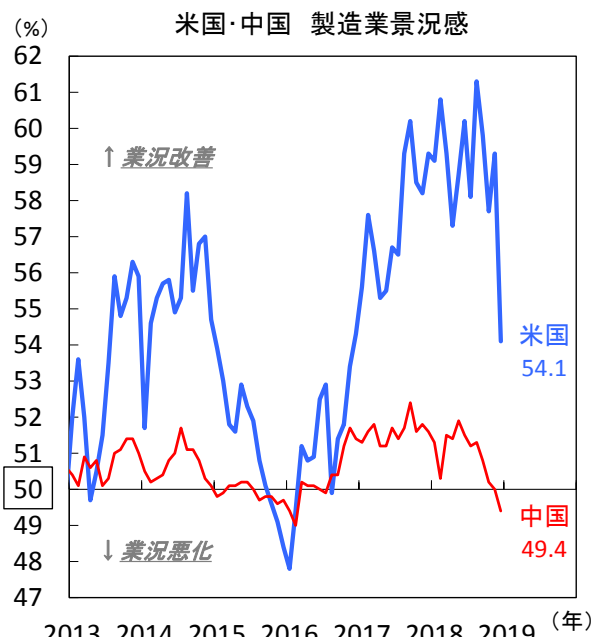
■ 焦点は米予算協議や英国のEU離脱協定審議

米国雇用環境などは良好なため、景気後退懸念は行き過ぎとみますが、市場の不安心理緩和に向け、まずは米暫定予算成立（政府機関閉鎖解除）、英議会のEU（欧州連合）離脱協定承認など政治問題が片付くかが鍵です。残る焦点はFRB（連邦準備理事会）の動きです（図2）。

■ 1月FOMC（連邦公開市場委員会）も要注目

今年内の利下げすら織り込み始めた市場に対し（図3）、29・30日FOMCで利上げや資産圧縮方針の見直しを示唆すればある程度安心感が広がるとみえます。ただし、米利上げ期待後退は米ドル安（円高）を通じ、国内株に為替面で向かい風となりかねず要警戒です。（瀧澤）

【図1】 米中貿易摩擦などが響き製造業指標に変調、米国ISM指数は急落、中国PMIは50割れに



注) 米国はISM製造業景気指数、中国は国家統計局の製造業PMI。ともに50が業況改善・悪化の境目。直近値は2018年12月時点。

出所) 米ISM、中国国家統計局より当社経済調査室作成

【図2】 混迷続く海外政治、まずは米暫定予算成立と英議会のEU離脱協定承認に期待する展開か

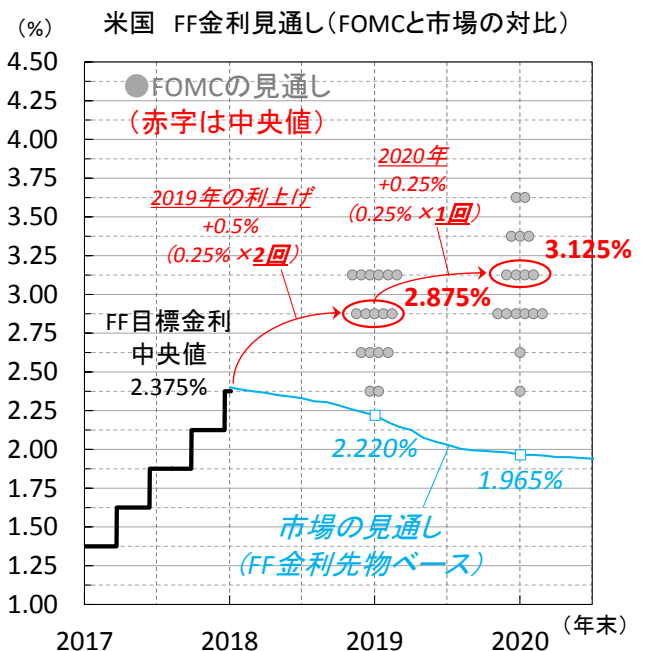
米国・英国 2019年春先までの重要日程

	米国	英国
2018年	12月22日 暫定予算期限切れにより政府機関の一部閉鎖開始	12月12日 メイ首相(保守党党首)が保守党の信任投票で勝利
2019年	1月3日 議会再開	1月7日の週 英議会在がEU離脱協定案の審議再開
	1月29日 一般教書演説	1月14日の週 英議会在がEU離脱協定案採決
	1月29・30日 FOMC 今年から毎会合でパウエルFRB議長が記者会見	1月21日 英議会在によるEU離脱協定案の承認期限
	2月中 予算教書公表	
	3月1日 債務上限引き上げ期限	
	3月1日 米中通商構造協議(関税引き上げ猶予)期限	3月30日 英国のEU離脱

注) 2019年1月4日時点の情報に基づく。

出所) FRB、Bloomberg、各種報道より当社経済調査室作成

【図3】 2019年に2回の利上げを想定するFRBに対し、利上げ休止→利下げ転換を織り込み始めた市場



注) FF目標金利および市場の見通しは2019年1月3日時点。FOMCの見通しは2018年12月18・19日時点の参加者予想。市場の見通しは2019年末値は2020年1月限、2020年末値は2021年1月限の値で代替。

出所) FRB、Bloombergより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会